

令和四年度 近畿納税貯蓄組合総連合会会長賞

租税教室の必要性

明日香村立聖徳中学校 三年 赤松 里咲

中三の一学期が終わる頃、「来週は租税教室があります。」と先生から伝えられた。受験を控えている今、授業を進めてほしいと内心思っていた。「税とは？」と問われれば、何となく必要不可欠なものと理解してはいるが、難しく複雑なイメージがある。

そんな私は関心や興味も湧かないまま、租税教室の日を迎えた。始めに税理士の資格取得はとても難しく、平均年齢が六十歳だと聞き、より税とは難しいものという印象が強くなった。しかし、税金は私達の豊かで安心した暮らしの為にを行う公共サービスの費用を賄っていることを知る。公共サービスとは、警察や消防、ゴミ収集、福祉などのことだ。確かに、ゴミを出して収集してもらう度に集金されることはないし、祖父が急病で救急車のお世話になった時も請求はされなかった。それらは、全て税金のおかげであることを学び、税とは無くてはならないものだやと実感湧いた。

特に驚いたことは、私達の学校教育のために使われている税金のうち、公立学校の生徒一人当たり年間約百万円もの教育費が負担されているということだ。私にとって百万円は大金であり、その大金が一体どこに使われているのだろうと思い、調べてみることにした。百万円の使い道は、「学校の校舎、体育館、プール、教室の机や椅子、黒板、教科書、授業で使うパソコンや楽器、理科の実験道具、体育用具、公立学校で働く先生の給与など。」私の中学では、一昨年エアコンが教室に完備され、この夏休みにもロッカーや床が新しく張り替えられた。こんなにも身近なところで税金が使われていることに気付かず、当たり前のように過ごしていた自分がとても恥ずかしくなった。

小・中・高の十二年間では、約千二百万円が私達の教育に使われていることになる。もし税金が無ければ、一人当たり千二百万円を個人で支払うことになり、兄弟姉妹がいる家庭は学校に行かせる為に二倍三倍もの支払いができるだろうか？教育を受けられない人が増えるだろう。誰もが教育を等しく受けたり、美しく住みやすい日本の環境が保たれていることも全て税金のおかげである。私達の日常生活と税が密着し、どれほど大切なのか痛感した。

今回、私は中三で初めて租税教室で税について学び考えさせられたが、もっと早い段階から税について勉強する必要があると感じた。税の使い道や大切さを学ぶことで、今更ではあるが、学校で勉強できる有り難さをつくづく感じた。小学生の頃から税について知ることができたら、学校に通える幸せや公共の物を大切にす気持ちが高まり、社会のみんなの支えに感謝して勉学に励むようになると思う。これから私自身、もっと税への理解を深めて行きたい。そして、たくさん働いて社会に貢献できる大人になりたい。